每月一回十五日刊行

平民的青年

第壹卷

吉田基治著

賣捌所日新館

特51
472

平民的青年之序

余か熊本に留ること六年明治二十一年偶郷里父兄の家に必要の事情發出し已むことを得す同十二月一旦歸郷す爾來月を經る一ヶ月二十二年二月暇を乞ふて再ひ九州に遊歴す此時九州各政黨の競爭囂々憂國志士の奔走日も亦た足らさるの際にて在りし此の際九州の有志と交際を爲す最も深し偶政友余に告くるに海老名氏の肥後に在ることを告く暇を得て氏が寓居を叩くと四回余告くるに政治を談し宗教を論す君政治家を以て自ふ任する人に非ふす然れとも其温和なる偶然の言語は却て余か神魂を感動せしめたり其感動は余をして益本書を綴ふさる可らさるの必用の場合に至ふしめたり否な時勢の大潮は余をして傍觀する能

はさらしめたり余此時歳始めて二十二其淺識無學なる亦た推して知るへきなり然れとも幼年の感動程大なる者はなし彼れの感動は余か志想を豪勇大膽ならしめたり爾來晨夕孜々筆を執ると三日漸く二題の半塲なる偶惡病の侵す所となり稿を止めて臥する五ヶ月其再復の見込なきを知り同十一月笈を負ひ難を侵して鄉里に歸る以後身体舊に復するを得たり遂に余か從來の意見を藝備在坂の志士に吐露し廣陵に於て平民主義政治雜誌を發刊し以て大運動を爲さんとを以てす有志の士大に同意する所あり此に於て其計畫に奔走する三ヶ月餘偶同月東京政論記者等來るとあり余亦た宿所を叩いて之れか意見を聞く諸氏告くるに規摸を擴張して本年二月帝都に於て新聞發刊の約を以てす余之を諾して去る一理一害は事物の常理とは云へ

以後一事の已むを得さるに逢ひ遺憾胸中に充滿し遷延今日に至り未た之を遂る能はす噫天運未た至らさるか時機未た早きか豈に亦た遺憾ならすや遂に精神一致本書の草稿に心を據せ二十三年一月七日再ひ筆を起し短月にして大成す稿終りて之を一讀すれは文意の曖昧したる所尠なからす其大成僅少日にあり豈に亦た圓滿なるの理あらんや今之を修正せんか却つて全体の意味を損せんことを恐れ別に正すとを爲さす然り而して余生來多病社會の形勢人民の狀態に暗らし加ふるに淺學無識然るに大膽にも之れか言論をなす豈ま世の學者政治家に對して耻つる所なからんや亦た其書体一定ならす論理正しきを得す是れ實に遺憾とする所なり然れとも文縟を習ひ虛妄を裝ふは余か執らさる所なり唯此書の要する所國民の政治思想を發

起し明治青年の義務責任を了解せしめ社會の現象歐洲大勢の概畧を論し吾人か將來の處世法を講し青年の權利を擴張し未開野蠻の弊風を掃除し以て理想的文明に進まんとするにあり且書中自由道德平民主義の必要を論するか如き是れ余か常に稱道する所にして明治青年の取らさる可らさるの大主義なり將來の人民の愛慕せさる可らさるの大主義なり余か淺學にして此企てあり其文意我か志想に合せさる可らす天下の讀者之を讀んで自覺する所あり以て國家に報する所あれは余か望み足れり玆に一言を卷首に錄す（因に曰ふ本書は著者か平民的青年と題する著書中の一節を編輯したる者なり）

明治二十三年十一月　於廣陵　著者記す

平民的青年

吉田基治著

明治青年治世の困難上

改革は改正なり改正は修正なり然れども吾人は其初より平和の改革あるは未た多く觀さる所なり吾國の改革は平和なりしか吾人は未た其維新の改革に於て其政治の變化に於て漂船の順風に帆走るか如く平和に安全に前に岩石なく後ゴ險山の横はるとなく穩靜なる改革ありたるを視さるなり其維新の變遷に於て施政上外交上人心給養上に躊躇なく悽惻なく無事平和に維新の海狹を通過したるを聞かさるなり吾人は其形体上に於ても精神上に於ても實に我邦の愛國志士をして切齒憂慨在朝在野の間に於て內治及外交政畧の爲めに手を速ねて東奔西走日も亦た足らす在朝に在つては鎖國攘夷論天下に囂々たり在野に

在つては報國慷慨の志士開國交際の事件に熱心ならしめ之れか爲め獨り國事を思ふて身を思はす頗瞰遂に幽室の人となりたる高杉晉作の如きあり青年何心徒飄然鳩車竹馬送流年の久坂氏の如き慨嘆家あり松陰先生の如き佐久間氏の如き藤田東彪の如き慷慨家あり慷慨溢れて馬關の變あり薩長二藩の同士折ちを生せんとし朝議の變動し易き國民方向を失はんとせり亦た續いて紀綱廢弛し萬民塗炭に苦しみ殆んと瓦解土崩の色を現はし外は醜夷强梁す實に國家危急の秋に乘し正に併呑の禍ひに罹らんとす此時に當り人才を擧け書政を修めさる可らす云々の尹の官の勅旨あるに至る亦た續いて別府浦の變あり櫻田門外の異變を視る遂に在野黨の悲歌憤嘆は爲に在朝の百官をして民間志士の鮮血を注いて曉の夢と共に烟散霧消黄泉の

客とならしめ爲めに四園の情草をして痛嘆の色を帶はしめたるを知る然れども之れと共に彼れ開國論者の未來を看破したるの神魂は今日に至るまて在朝在野の志士をして其國家に大益ありしとを追想せしむるに至る墓下の忠士果して之を喜ふや否な彼等の鮮血は十九世紀日本文明の基ひとなれり吾人は實に感謝に堪へす若し彼れ民間の志士をして此の奮發此勇氣なかゝしめは吾人は今日に於て維新改革後の新天地を戴き高等清美の代議自治政治の旗下に棲息するの覺束なきを感せすんはあらす吾人今上天皇陛下の聖恩に感謝する所なかる可らす然り而して其實際に於ける改革は如何かん吾人は維新の改革は人心の改革に在らすして武備及形体上の變革たりしとを知る未た其理想的の改革たりしとを知らさるなり則ち當時劍を

腰にして網笠を着て横行闊歩したるか如き者をして今は唯帽子とサーベルと變し藩は縣と唯其の名稱を變したるか如き地行書か公債證書證文の如きに變し番所は警察署と名を變したるか如き形体的の否な唯皮想上の改革にして其施行上の方法は同しく是れ專制政治と云はさる可らす如何んとなれは其政治上の改革は其二十三年前に現はれすして今日に於て其改革に遭遇したれはなり

今や維新の天地は遙か二十三年後の過去にあり不幸狼狽飢に泣き寒に叫はしめたる二十二年の不吉の年は既に去つて既往となれり今年はそれ如何なる年そ二十二年間の永長の航海路は變へす走つて目的の海岸に落着せり識らす明治の青年は既往を追想して悔る所なきか將來の吾人か前途の運動場裡を見て慮る所なきか看よ活眼を一歩を

進めて歐洲の我に對する形勢を見よ英魯の葛藤は我國に於て憂ふる所なきか魯國かアフガニスタン境界事件に對する騒爭は我帝國に其餘勢を蒙ることなきか英國か魯國に於ける魯國の我に於ける其競々たる大勢は夫れ如何んそや今や歐洲の形勢は兵備の强弱と富の多少によつて國の盛衰興亡を決せんとす我邦の愛國志士は夫れ如何なる長策を以て彼等と對立せんとするか若し之を視て依然たるんか歐洲列國の大勢にして此の如くんは勢ひ我邦の外交政略も亦た慮る所なかる可らす之れ全國老練の有志政治家の豫め注目を要するとのみならす實に我帝國將來の世續者たる吾人青年の注目すへき大問題と云はさる可らす

余輩は既に前二章に於て理論上より經濟上より軍備減少のことを論したり然れとも世は唯理論と經濟にて料理出來

得へきとゝあらす吾人今より實際上の位地に立て少しく之れか研究を試みんと欲す

第一大英帝國の東方政畧抑も英國は文化漸く開達して既に腕力主義は放棄せり否な戰爭の時代を經過せり故に非常止むを得さる場合を除くの外干戈を動すを好まさる者の如し其故何んそや其之か主因となる者二あり即ち軍備の不整頓なると國民平和を欲するの念に厚きと是れなり吾人は決して軍備を整頓するの力なしと謂はず唯急要に應するの軍備不整頓なるを謂ふのみ英國の最も長する所は人民の富裕なると氣力の强大なるとに因り戰爭久しきに亘るも百折撓ます萬艱屈せさるにあり然りと雖とも歐洲今日の形勢を見るに兵事一朝歐洲列國の外面に起るあらは其勝敗の機は實に僅か數週の間にあり從て之れか兵

備の必要も亦た數週の間にありとす然り而して大英帝國は此の機に際し直に出兵を爲すの準備あるや否な吾人は是れか答に躊躇せすんはあらす故に一朝大陸に事あるも出兵の準備に數月を費し肝要の戰機に應する能はさるや知るへきのみ吾人をして之れか証據を擧けて少しく論せしめよ若し一朝墺地利か歐洲大陸に戰端を開くに至らは彼れか同盟國をルーメニヤに求むると英國に求むると墺國に取て何れか利か吾人は是れか答に躊躇せさるなりルーメニヤは一朝必要あるに及んて立ろゝ十五萬の精兵を出すの豫備ありと雖も英國は之れか急要に應するの兵備なきとを果して然らは墺の二國に擇ふの得失は智者を待て後に知らさるなり英國既に急用に應するの軍備なしと雖とも一旦事起り戰爭日久しきに至るの場合に於ては彼

れは百折不撓能くこれに耐ゆるの力量あり此の如にして尙ほ且國民平和を欲するの情厚き所以のもの豈に偶然ならんや吾人は尙ほ進んで之れか事實を慥かめんと欲す先きにマダガスカルに於て佛人英國を冷待したるか如き亦たユーベブッツを占領せられたる如き侵害を被りしと一にして足らすと雖も尙ほ忍んで戰を爲さす歐洲の平和を今日に維持することを得たるは全く無量の富裕と人民か專ら力を商業貿易に委するの事實にして戰爭は富を倒て裕を破り商業貿易を害するの不利益なることを見とめ商業を以て社會を併呑せんとするの志想あるか爲めならすんはあらす以上は之れ英國か西歐に有するの政畧なり其彼れか東洋に於ける政畧は如何ん吾人は英國か東方に於ける政畧は清國と共に攻守相賴み防禦保守の主義を以て

露國東侵の勢力を防んとするの方針なることを信せすんはあらす何ゝ因て之を知る英國有名の政治家の東洋政畧論に付て之を知る其言に曰く――日本の如きは之に喞はしむるに樺太島を以てせは之をして魯を離れて我れに同盟せしむると難きにあらす日本をして我に同盟せしむるは實に緊要の政畧と謂可し去りなから清國か我に同盟すると否とは頗る我國の安危に關す我れ清國に向て同盟を求むるときは彼れ或は太平洋岸及黑龍江地方に於ける我將來の侵畧地を讓與せんとを求め或は上緬甸を分與せんとを求むるならん我國は成へく其請求に應し彼れをして我同盟たらしめすんはある可らす英清は亞細亞に於て利害を同ふし魯の侵畧に對して痛痒を同ふするものなり英清の關係夫れ此の如し之れ二國は自然の情勢に於て將來永く

同盟を爲すの位地にあるものなりと此に於て吾人か觀察の過空ならざるとを信す其我國か魯に英に同盟するや否なやの点に至りては國家重要の問題なり一朝一夕にして決すへきとゝあらす唯吾人か我國民に望む所の者は白耳義の決心に倣ひ亦た歐洲諸國の難局の地位に在つて獨立の對面を保つルーメニヤバルガリヤ南歐スラボニッタ人の如く確乎不拔の獨立心を以て大英斷を以て大膽畧を以て彼の滔々たる列國交渉の中に投し或は甲と和し或は乙と結ひ縱横自在能く連合の機を制し歐米諸國か東洋に對する權力を乱し以て其勝敗の柄を握り更に進んて歐洲の外交世界に入り其の權力の平均をも攪擾するの大勇力を揮はんとを望むの外なきのみ吾人か今ま此に歐洲列國の東洋政畧を論する唯だ概畧たるに過きす之を細論するに

至りては數十枚の紙上を得て能くする所にあらす讀者之を諒せよ

第二 獨逸の東方政畧獨國は佛魯の間にありて其兩國の親和を妨げ同盟せさらしむるを以て本務となし頻りに魯國の歡心を買ふと雖も東洋政畧に於ては寧ろ清國に結ひて以て勇威を東方に伸んとする者の如し而去て彼か西歐に於ける同盟は如何ん魯か佛か墺か吾人は今ま獨國か佛國と親友たると能はす魯と誼交を保續すると能はさる所以より之れか研究の歩を進めんと欲す佛國か嘗てニウヘブリッヂを占領するや英國不平を訴へ不當の所爲となしニウヘブリッヂの占領を撤去するは是れ則ちニウカレドニヤの安全を保つの政策なり濠國建國以來日猶は淺しと雖も權利自由を尊重すると最も深し米人は嘗てメキシコ

より佛人を放逐せり澳國も亦た此轍を蹈み南太平洋より佛人を放逐すると謀る可らすと戒告せり固佛に反對し獨亦た反對せり之れより玄て益佛獨間の和親氷薄となれり加之彼等は常に境界を爭ひ僅少の事も莫大なる怒恨を持つのみならす獨國は常に道を白耳義局外中立國に借り以て佛國に侵入するの意あり豈に二國間の同盟を保つことを得んや然らは則ち魯國の同盟如何ん曰く魯國人民か以て敵とする者は獨あるのみ其他は亦た論するに足らすとせり彼れら常に曰く魯獨の間は早晩必す戰を開くの日あるへし其一朝戰端を開くに至らは古今未曾有の大戰爭にして千八百七十年の戰爭の如きは小兒の戲に過きすと亦た曰く獨若し魯に勝たは魯は連年兵を交へて獨を亡して後止むと噫魯國人民の偉大なる夫れ驚く可きにあらすや獨の

將軍モルトケ曰く獨は二十万の兵士を魯獨の境界ウイスナユラに備ふるにあらされは魯兵の侵擊を防止するに足らすと獨國の兵勢亦た知るへきのみ加之墺は常に獨を助けんとし魯は常に佛に向つて救助を與へ常に佛國の辨護者たらんとせり之れ獨逸魯の睦交を永續せんと欲して魯の背んせさる所佛の願ふ所にして魯の受る所なり以上は西歐に於ける獨國の形勢なり吾人は一進して東洋政畧を論せんとす抑も獨國將來の同盟は西歐にあらすして東洋にあり彼れは從來海上の帝王たらんとし一躍して威を東洋に振はんとす蓋し英魯二國の我最近朝鮮に注目する最も久し而して彼等日本水路の鎖鑰たる對島に對する擧動如何ん彼等は文久年間國旗を灣頭に飜し不穩の擧動を現はしたり英國之れか爲めに外交上の談判を開き勢ひ撤去せ

さる可らさるに至らしめたり獨國の東洋に海軍碇泊所を求むるの企圖あるや久し其日本に於ける願望如何ん高眼の士は既に能く之を知らん吾人は歩を轉して獨人の清國に於ける擧動を究めんと欲す抑も獨國政府か清國を稱して最良の同盟國と見做し以て和親を求むるに汲々として東洋に國威を張らんとするや一朝一夕の事にあらす噫我國は豺狼の如き饑へたる虎の如き歐洲列國に對して我旭旗の光輝を永遠に保つ白耳義の如き位地に立てり(少し事實の異なるにせよ)我國既に印度緬甸布哇朝鮮土耳其の如き例証あり勇壯快絶我國權を東洋の全面に振ひ國家永久の基礎を堅固ならしめすんはある可らす徒らに過空の言論を吐き一朝國事に異變を見るに至り驚駭狼籍血雨霏々たる修羅場を取るか如きは國民の爲すへき所にあらす勇

壯血氣の士は自重すへし輕薄粗暴の士は自愼すへし今や獨國政府は將校下士を以て清國兵備の教導を司る亦た滿州の人民を集めて之れか常備の兵を增加せしめんとす加之當時兵整及內治の方針は殆んと獨逸主義に化せり然れとも之れか以前に於て米國の如きゴルドン將軍以來大に信用を得たりと雖も今日に於ては却つて彼れの信する所は獨逸にあつて亦た獨國政府の和親を求むるに汲々たる所ならすんは在らす獨國航海者は先きに支那政府か英國に注文したる艦体の船長たり或は海軍の機關たり貿易家は小銃大砲等を輸送し工業家は益々支那政府の建築に從事し以て東洋に大勝利を得んとせり然り而して英國大宰相か獨國皇帝の首相ビスマークの地位にある總督李鴻章の信愛する所は獨國にあり故に清國海軍の改革あるや之

れか兵制の[illegible]國制たるとは亦た疑ふ可らす噫獨國の西歐に於ける同盟は墺地利にして墺國の賴のむ所は亦た獨國にあり其の東洋に於ける同盟は清國にあり其獨清兩國の和親は日に倍々親密となり以て東洋政畧の基礎を堅固ならしめんとす既に然らは日本か獨國と同盟する亦た危うからさるを得す然れとも吾人は獨人か清國政府と結托して威を東洋に振ふを恐るゝに在らすと雖も亦た彼れか爲めに多年を出すして吾人か活力を要するの時機至るとを恐るゝなり噫日本の國民よ我國は實に貧小なるに相違なし其版圖は魯清諸國に對して小豆の如し然れとも吾人は三千年來同一統の獨立國の人民なり其身体實に小なりと雖も三千年來養ひたる義氣を有す四千万の同胞勤勉力作するに於ては國家豈に易々として亡ひんや起よ日本の快

男子宜しく沈思熟考目前僅少の事業を捨てゝ雄偉遠大なる世界的の國民となれ

第三魯國の東方政畧魯國の東洋政畧は終始經畧の主義を一定して百折撓ます以て其志を東洋に逞ふせんとするにあり彼れと愚弱にあらす偉大なり實に世界的の國民を有す乘す可らさるの勢あり進取の氣情なきにあらす實に侵畧的の實力を有す彼れは理論を以て虛飾を以て國を立つるにあらす英雄的の膽力を以て國を立つ彼れか國民は武骨なる鉄石の如し然とも侮る可らす何となれは魯國の人民は最も愛國心に富み信仰心に厚けれはなり其平生上流社會より輕侮せらるゝにも係はらす一朝外交に事あるに當ては結合力に厚ふして貴族なく上流の社會なく唯彼等か眼中魯國有のみ其版圖は支那を除くの外地球上殆んと

其比を見ず吾人は今まこれか内治の証據を擧て論する所あらんとす魯都ピートルスボルクには材智學識兼ね備はりたる者あり亦た久しく外國に住居して各國の事情を知る者ありと雖も魯の政事は獨り魯帝の專制に屬し彼れの學識材智ある人物を參與せさるに至りては魯國の爲め惜まさるを得んや而して魯國現今の人物如何んカトコフは一個の豪傑として社會に勢力を有するのみならすモスコウ府黨の主領として大勢力を有す其他アクサコフサマリコの如きありと雖も皆な之れ舊世界の人にしてモスコウの外他に世界なきの妄想を抱くの人たらすんはあらす今や名士は政治界を退いて身を閑散に置かんとす内地の形勢夫れ此のごとし然るに彼れか世界に立つて大勢力を有する所以は何んそや則ち其内治外交の大体に付き殆んと全國民を擧けて同意一致するの結合力あるか爲めならすんはあらす而して彼れか遠征の勝利如何ん千七百七十四年より千八百十二年に至る卅六年間に哥里米北部地方及哥里米カスピヤン海と亞東海との間に於ける地方ヲテッサ府週邊の土地及ベッスサラヽア州ジオルヂヤ州シンクルソヤ州イメレチヤ及ガンジヤ州セーキ及カラペ州シコルバン及カスピヤン海邊のタリス州なり加之千七百七十二年以來ドレスデンムニッチ及巴黎等の諸都に向つて其國境を廣めしと八百五十英里コンスタンチンに近接せしと四百五十英里ピートル大帝卽位の日には其國境瑞典の都を距ること三百英里なりしも今や僅か一二里の距離に及せり瑞典の王之に破走せりナポレチンも亦た擊退せられたりタルタリー人も土耳其人も亦た之と戰ふて敗北せり

豈に決れ大ならすや今や中央亞細亞の鐵道線を指示し以て西より東に向ふて運動を初めんとせり彼れの先き觸れなるシベリヤ鐵道は其竣工近きに在り東洋の浪荒しと雖も彼れか二百二十三艘の鐵艦は容易く乘廻するを得へく朝鮮の海狹亦た一躍するとを得へし若し此に至らは東洋の局面を一變す是れ魯國か太平洋岸に其威勢を張ふんとする政畧なりとす吾人は自重深慮以て我國の爲めに謀るに一日も魯國に對するの策を定めさる可らす

第四佛國の東方政畧佛國は常に其政体の變動に依つて一定の政畧に決すると能はすと雖も彼れは英國の專權を減少せんか爲めに魯國と共に同盟して威を東洋に振はんと欲する者の如し英佛か埃及に干戈を交へてより以來英國は大に察する所あり伊國と相結托せり佛國は嘗てサボイ

ニースの二州ヲ强奪したるとあり故に佛國と伊國の間怨恨實なふす然るに佛政府は尙ほ威勢を振ふてアルセニヤを占領し尙ほ續いて伊國希望のチユニスを奪畧せり此に於て伊の佛に對する政意以前に重倍せりと云ふ可し然るに彼れは獨力以て佛國に抵抗する能はさると決心したるが爲めか今日英の依賴に結傾せり之れ英佛間の權衡を左右するに至りたる所以んなり

抑も佛國千八百七十四年以來順化府の條約を以て安南を保護國たらしめ清國と兵を交へて之か和親條約をなしてより支那政府をして安南の事に干渉せさらしむるに至れり抑も清國に於ける安南の地たる亞細亞大陸の南に面し東北は雲南省と境をなす西南は緬甸邏羅と其壤を接するの國にして東洋の表面より見れは殆んと朝鮮に亞く所の

要害地たり彼れ佛國は之を以て屬國たるの形狀とならし
めたり既に然らは佛政府か益々今後支那東南の境域を多
事たらしむるや智者を俟て後ち知るを要せさるなり事此
に到達するとを知らは佛政府の殖民政畧は今日單に印度
邊海亞非利加西部の土地のみならす今後東方に其勢力を
及し清國と商業を爭ひ活潑蠶食の慾は益盛んとなり魯國
はこれに從つて援助を與へ佛國の同盟を賴み兩虎眼を聳
て東洋の局面に對立するやも知るへからす嗚呼東洋危急
の勢此の如し我國の君子何んそ其眼を快大にして先つ彼
我の實力形勢を洞看せさる
吾人は一歩進んて暫く論すあらんとす英國政治家の名士ジ
ル〻氏英國と魯國とに係する政畧を論したる者を讀んて
其大勢に驚かすんはあらす則ち左に其大意を掲けて讀者

の一覽に供す
前畧我國は奈何なる犧牲を供ス奈何なる危險を冒す
も印度の爲め英國の爲め印度を防禦すへし我れ若し
印度の防護を怠るときは之れか爲め全地球上人類の
殆んと四分一の平安を破壞するに至るへしと亦た曰
く魯か其勢力を中央亞細亞に伸ふるは必して疑ふ可
らすと亦た曰く魯人は今やアフガンの境界に達し將
さに併呑せんとす然れとも人は其獨立自由を愛する
の念慮に富むか故に未た其侵略する所とならす近來
魯人か中央亞細亞に於て其旗章として用ゆる所を見
るに蒼々たる原野の中央に魯帝國の徽章たる鷲鳥の
翩々たるを畫くか亦は蒼々たる原野の一方に大陽の
將さに地平線上に昇ふんとし他の一方に於ては大陰

の將さに地平線下に沒せんとする所を畫けり蓋し魯を以て旭日に比し英を以て沒するの月に比し以て兩國かアフガンに對する盛衰をアヘン人に諷するものならんアヘン人は假令一時内亂の爲め同胞相戰ふの不幸に陷りたるも若し外敵の侵擊に遭はゝ必す全國民一致して之を防くへし故に彼れアヘン人か魯兵のカブルに入るを防くは猶ほ英兵の同地に入るを防くか如し英魯はアフガンの地方に於て相對するや夫れ此の如し故に今英人にして英魯の兵かヘルムンド河上に平和の會合を爲すことを望むと言ふ者あらんか余は其英人の果して本必に斯る平和の會合を期して之を口に發するや否なやを疑はさるを得す否な余は之を以て臆病心に發するものと爲さゝるを得す我國は早晩魯と干戈

相見ることを免れすと

噫英魯兩國の不穩且たにあり之れと共に我國の念慮も多端ならんとす吾人は亦た嘗て支那陸軍大將劉名傳か支那皇帝に奉りたる書を讀んで東洋大勢の危激なることを悟らすんはあらす其清國の我に對する者は

魯國の我に對して驕傲なる所以と日本の我を輕蔑する所以は支那帝國の版圖廣大は則ち廣大なりと雖とも其外敵に對する防禦あるは唯其一偶のみにして事の生するを恐るゝと其國力を振起すること能はさるとの故なり然れとも若し陛下にして鐵道敷設の令を下すときは人皆な我國勢を强むるの志あることを知り且我國力も俄に振起すへし此に至らは我亦た容易に魯國と條約を締結することを得のみならす兵備擴張亦た

以てて日本の輕侮を減するに足る

是れ固より小事なり然れども吾人は支那鐵道の敷設は我帝國に大關係あるとを知らさる可らす亦た其の魯國の支那に於ける形勢は如何ん吾人は左の一文を讀んて其危險たるとを知る

魯國は既に歐羅巴よりハウハンキアクナ及其近隣に達するの鐵道を敷設したり而して今亦た將さにハイシエイウエイよりハイチヤンに達するの線路を敷設せんとす支那と魯國とは相交接すると凡そ一万里あり之雖とも若し鐵路の敷設なきのときは縱ひ今の兵

（著者云ふ一千八百八十三年デギグチス氏の中國と題する出版書籍により八十四万二千人）を增し糧飼を加ふと雖とも能く之を防く能はすと

支那の大國にして夫れ此くの如し彼れの魯國に對する氣運此の如くんは我れも亦た支那大國を接近す其餘勢又た大ならさる可らす歐洲の大勢東洋の氣運ろれ此くの如し印度アフガンの勝敗は東洋政界の因て分るゝ所にして魯清兩國の葛藤は亦た我外交政界に大關係を及す所なりと

す噫我外交事務の將來も亦た推して知るへきなり然れとも吾人は歐洲大勢の高大蓊鬱として東洋政界東洋の貿易場に大關係あるとを知りつゝ手を袖にして之を傍觀するの懶惰なるとを悟らすんは在らす若し吾人をして帝國の滅亡を於て顧みさるの惡徒たらしめは可なり然れとも吾人は帝國の臣民にして愛國の志士なり平生之を忘れんと欲するも忘るゝ能はす然らは吾人明治青年の將來に處するの策は如何んすへき亦た防禦の策は豫め之を講し置か

さる可らす

吾人は一歩退いて戰爭の一國に取て利なるや亦た不利なるやを究めて後之れか防禦の策を講せんとす抑も戰爭は社會の土地と勤勞より生ずる處の生産の一部を徒費し商業等を害する者なり豈に唯商業のみならんや人民をして貨物を購求するの力を減少せしむるのみならす人民の手裏に存する分量を減少す若し兵備擴張費を轉して他に使用せんか亦た大に一國の元氣を養ふ所あらん吾人試に之か一二を示さん其戰爭の材料を備ふるか爲めに使用せられたる資本は商業貿易の進歩を圖るとの資本に用いふるへく砲銃等に費されたる銅鐵は鐵路敷設に用ふるへく城砦を築くの勞力資本は港口橋梁若くは雨露霜雪を凌く能はさる貧民を救助することを得へく城砦築造に使用せら

れたる人夫は土地の耕耨或は貴重なる物品等に用いらるゝを得へし若し人類にして數百人を遊惰に使用せは數百人の損失なかる可らす故に曰く一國の平和を維持するは兵備にのみ依賴すへからすと之か平和を維持するの材料なかる可らす兵備は平和の維持者にして平和を維持する材料を與ふる者にあらす一朝戰端を開くに至らは之れか爲め中立國と行ふ貿易も遮斷せらるゝに至るへし故に曰く太平は貿易の友たりと

若し青年の將來にして兵器主義を取る者ならゝめは吾人亦た此に喋々せす若し平和主義を取るに至りては吾人少しく望む所なかる可からす賴襄曰く海内擧て皆な兵にして豈に亦た武門武士なるものあらんやと賴襄も卓眼の士なるかな吾人か平和主義に於て望む所は此ゝあり古昔

ノアの子孫の建てたる埃及及巴比倫は農業を以て其名を著はしたり羅馬の最顯名なる將師は時として田畝より召命せられたるとあり元老院の議官は通例郊村に居住して手つから其地を耕耘し最高貴の親族は特種の穀物を作るとより其姓氏を得たり國家擧て皆な兵たる者我國のみならんや今や彼れ英國は商業を以て社會を併呑するの方針を取れり我國も亦た獨立國の地位其海國として彼れと同當の地位に居れり明治青年夫れ自想せよ視すや我最近朝鮮國の狀勢を兵備の擴張實に顧ふて止まさる所なり然れとも其平和を維持する材料なきか爲めに今日の位地に至れり吾人豈に鑑みる所なかるを可からす況んや我國は商業を以て一國を維持するに最も適當たるとは歐洲各國人てすら許す所其國民や義氣に富み不撓の勇氣あり強壯の人民

にして嚴肅の風あり豈に外人の爲めに一歩を退く者ならんや徒らに兵備の擴張に汲々として伊太利の如く財政困難に沈むか如きは吾人將來の長計にあらす故に曰く苟も國力にして確實ならは一國の平和を維持すると難きにあらす徒らに兵備の末に汲々せんよりは寧ろ國民の元氣を養ひ玆の民を富すにあり噫此民を富すにあり

明治青年治世の困難下

蘇試曰く天下之患最不可爲者名爲治平無事而其實有不測之憂坐觀其變而不爲之所則恐至於不可救起而强爲之則天下狃於治平之安而不吾信唯仁人君子豪傑之士爲能出身爲天下犯大難以來成大功此固非勉强期日之間而苟以求名者之所能也と夫れ我國今日の境遇には實に不測の變なきとを保證するとを得へきか外部平和を裝ふて俄然禍を生す

るは國家の常なり恰かも外人か日本は實に美國なりと謂ふて心中世界の遊園と見做なすか如き吾人は歐洲今日の形勢を見て將來必す大難の發生する時あるを知る是れ不測の變は暫く措き得測の變あるとは苟しくも少しく智ある者の知る所なり然らは吾人四千万の同胞は如何にすへき蘇鉄の所謂る國家の大難は仁人君子豪傑の士ろ身を出さて其難に當る可きか否な豈唯仁人君子のみならんや一國を買ふの代價は一國人民を以てせさる可らす若し之を以て我國民の國家に對すゝ責任なりとせは我明治の青年も亦た辦を養ひ才を蓄へ一朝事あるの日に當つて之に處する の法なかる可らす將來の世界に向つて吾人か日本帝國の爲めに負ふ所の大任は其相續後に於て能く之を爲すことを得るや否なや吾人は其三尺の童子か成年になつて漸く勤

勉力作せんとするの困難にして其習業の空漠として敗後に備へを爲さんとする兵法知らすの兵法家に在らさるなきかを疑はさるを得す吾人は唯此に之を救ふの崔巍皎潔の一策あるのみ何んそやギルバート曰く凡そ何人を問はす自家の事務に注意せさる者は他人の事務にも亦た注意せさるなりと吾人は自家の事務に注意せんか爲めに隊め事あらさるの今日より宇内の形勢狀態を視將來如何なる餘響を我國に及すやを看破し以て吾人青年か國家を經倫するの大道を講し大なる精神正大なる氣節を以て眞理に より正義を頼み以て萬分の一を國家に報するにあり

顧て內治の情態は如何かん專制は去つて自由と化し被動的の人民は一變して獨立自治の人民となれり其政体や滾々走りて間暖なく一躍して維新の改革を來し亦た一衝し

て代議國會政治の新天地を產出せり其鬱窓たる政園其實美の政木より擴張したる幹枝は如何かん鐵路の敷設となり憲法發布となり鐵窓の下に久しく呻吟したる憂國志士の大赦となり町村制度の發布となり舊內閣の更迭となり一轉して政黨の競爭となれり知らず覺へず一騰足の進步をなせり然れとも因果應法の原理は又た之に伴隨せり事物の關係固より然らさるを得す其反動の餘勢や馳りて森文部大臣の暗殺となり憤火山の破裂となり九州の振動と化し引いて物價の騰貴經濟世界の不規則を來たし俄然たる天災は墓なく數万の生ける人民をして惟悴惻れて危激の境界に突入せしめ囂然大隈伯の遭難となり條約改正の紛議となり九州進步黨の聯合となり遂に啼鳥歇む時山寂々野花殘る處月著々風穩かに浪靜かに民法訴訟法等の恩

典を見るに至れり是れか爲め國民の志想を活潑ならしめたり然れとも亦た一方に於ては惡分子を發生せしめたり然り其れ進步せり然りと雖とも其發達の中に於て格別に吾人は吾か將來に向つて如何なる用意をなしたるそ青年過激の潮流は止まる所を知らす其舉動は陰々たる大霧に乘して夜る行く者の如し知らす明治の青年は如何なるとを爲しつゝあるゝ吾人は却つて攘夷の志想を起し其保守的反動の勢力に捲き込まれつゝ在ることを感せすんはあらす噫青年よ深夜四隣寂たる書窓の下に獨坐して汝か既往の行爲汝か志想の慣化は今日の制度に於て將來の大勢に向て果して反する所なきか噫夫れ汝は保守的大海に漂流する所なきか青年固有の勇氣をして激裂不動の進取の氣情は其度を超過して吾人か達せさる可らさる平和的の

大勢に反對する所なきや否なや吾人は道義の感情之を咎むる所なきにし在らす蓋日本今日の進歩は漠然たる粗暴大語の時代にあらす精思遠考の世に進みつゝあるなり恰かも吾人か前途は古代に於てアルタイ山脈以北の部分か未た知られさるの時代なり故に其前途の踏み場は岩石あるや突屈あるや未た知る可らさる漠然として唯雲煙を以て圍繞せり寧ろ佛國人か埃及遠征中ナイルの河口に近き城址に於てロセッタの石碑を發見するの時代にあり賈嶋か詩に曰く心帆を懸けんと憶ふて身未た遂けすと吾人か位地誠に此くの如し唯前途希望あるのみ往事悠々として浩歎となるとは之れ青年か平常の嘆息なり然れとも之れか爲め攘夷的精神を起すに至りては誠に野蠻の擧動と謂はさる可らす称も亦た此の如き者の增加したるは何にか

爲めか氣力在つて斷行力に乏しき骨々たる老人の爲めに慣化されたるか爲めならすんはあらす誰れか案内者を案内する者あらんや吾人は將來の案内者にして老人を導くの先導者なり吾人は決して彼れ老人の爲めに慣化さるゝ者にあらす去て却つて彼れを慣化せんとする者なり然るに彼れらか空言の爲めに知らす覺へす保守の大海に漂ふに至り以て國家百年の長計を誤るに至りては豈に慨嘆せさるを得んや吾人は實に封建の餘弊を去つて宇内の現象宇内の大勢と共に運動せさる可らす則ち貴族的の境界を離れて平民的國家に永住せさる可らす是れをしも汝は封建二の舞を舞はんとするか想ふ勿れ保守的の政畧保守的の家屋は吾人永住の家屋にあらさるなり則ち機械的の政治教育は人間固有の自由に大害あるとを知れ寧ろ吾人

は貴族的の美家に永住せんことを希望するより自他相愛する平民的の茅屋に永住せんことを希望せさる可らす蓋し階級政治は不正不道に人民を遇する無道に政治を行ふ專制なる社會は明治青年の生活すへき國家にあらさるなり｜ル氏曰はすや貴族政府は未開人民の家屋にして文明人民の家屋に在らすと記憶せよ吾人將來の日本は唯命之れ從ふ無氣力被動的の封建社會にあらすして極めて活潑に温柔に穩靜なる獨立自動的の社會たるとを抑も獨立自治の生活たるや野蠻未開の時に於て得て能く す可きとに在らす必すや文明國の民たらさる可らす未開人民は結合の志想に乏し商業生産の道に暗らし故に亦た貿易の運動なし之を監督し分配し供給し維持する人權をんするの志氣なきか故に亦た伴ふて政治の志想なき看

すや往昔原始社會の狀態を亞非利加ダホメカムサッカ人の生活に於ける其經濟産業貿易に於ける思想は如何かん吾人は暗淡無心系なるに駕かすんはあらすカムサッカ人の極めて性急にして輕小の事にても殆んと狂亂沸劣なる甚しきは自殺せんとするか如くアラビヤ人の一錢の事にても殆んと一日の貴重の光陰を空しく爭ひ消費するか如き其政治上及多數人民の支配者に於ける情態は如何かん吾人は實に左の如き者を見るブシマン人の腕力の外君長なしと云ふか如きタスマニヤ人の最も武勇に長する者を以て君長となすか如き臺灣人の首級を多く取りたる者を推して將とするか如き其殘酷にして獨立の志想なく一舉一動殺伐の氣を含む其當時に於ける政治産業貿易上に於ける志想も亦た推して知る可きのみ嗚呼是れ新文明の新

現象ならんや若し吾人をして專制武力の否な寧ろ專制暴力の生長したる人民を以て世界の最上開化とせは吾人は彼れ慘憺たるカムサツカタスマニヤ人の如き社會を擧げて文明國と云はさる可らす然れとも其民を遇する過激にして國家を維持する無道なる者を去つて人民を遇する公平に温和に社會を維持する正道に平和なる者を以て文明國と云はゝ吾人は彼れ等を以て開化の王國と謂ふ能はさるなり既に産業を知らす貿易を知らす不政治を知らす國家人民を遇するの法を知らす況んや高尚優美の自治の志想を起すの理あらんや

然らは則ち自治の社會は文明の空氣に因つて生活したるの人民に於て始めて組織するとを得るや疑ふ可らす既に自治獨立は文明國家の人民にして始メテ之を能くるすと

を知れり然れは過激非道の擧動は吾人の好みす可きとに在らさるや知るへきのみ吾人は現に産業貿易政治道德ある完全なる社會に住めり故に必す將來は否な今日より自動的の生活をなし國民の元氣を養ひ平和の手段を以て國家の大難に當らさる可らす既に然らは吾人青年は今日に於て豫め宇内の現象を見社會今日の大勢を達觀し以て要意する所なかる可らす古より浮雲白日を蔽ひ天を洗ふの風雨俄かに來るは吾人か常に既往の歴史に於て見る所なり輕擧國家を害す我を識る可し吾人は唯書劍を持つて從軍を學はんと欲す

現象ならんや若し吾人をして專制武力の否な寧ろ專制暴力の生長したる人民を以て世界の最上開化とせは吾人は彼れ慘憺たるカムサツカタスマニヤ人の如き社會を擧げて文明國と云はさる可らす然れとも其民を遇する過激にして國家を維持する無道なる者を去つて人民を遇する公平に温和に社會を維持する正道に平和なる者を以て文明國と云はゝ吾人は彼れ等を以て開化の王國と謂ふ能はさるなり既に産業を知らす貿易を知らす不政治を知らす國家人民を遇するの法を知らす況んや高尚優美の自治の志想を起すの理あらんや

然らは則ち自治の社會は文明の空氣に因つて生活したるの人民に於て始めて組織することを得るや疑ふ可らす既に自治獨立は文明國家の人民にして始メテ之を能くるすと

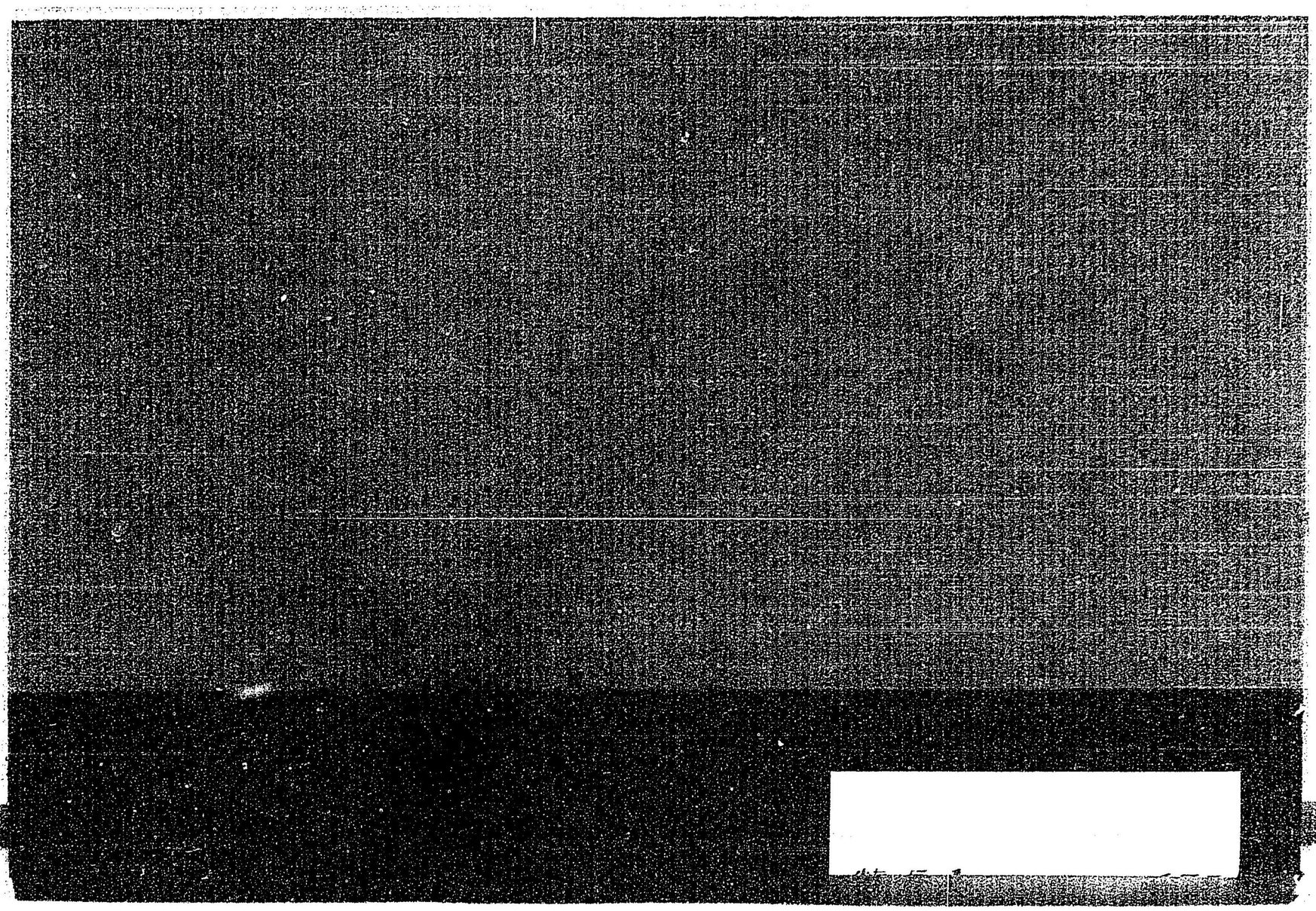
を知れり然れは過激非道の舉動は吾人の好みす可きとに在らさるや知るへきのみ吾人は現に産業貿易政治道德ある完全なる社會に住めり故に必す將來は否な今日より自動的の生活をなし國民の元氣を養ひ平和の手段を以て國家の大難に當らさる可らす既に然らは吾人青年は今日に於て豫め宇内の現象を見社會今日の大勢を遠觀し以て要意する所なかる可らす古より浮雲白日を蔽ひ天を洗ふの風雨俄かに來るは吾人か常に既往の歴史に於て見る所なり輕舉國家を害す我を識る可し吾人は唯書劍を持つて從軍を學はんと欲す

明治二十三年十二月八日印刷
明治二十三年十二月十五日出版　（定價金七錢）

著者兼發行者　吉田基治
廣島市段原村四百十一番地

印刷者　串本豐吉
廣島市字播磨屋町二番屋敷

賣捌所　日新館
廣島市革屋町



特51
472

平民的青年

国立国会図書館

039710-000-9

特51-472

平民的青年

吉田　基治／著

M23. 12

BDA-0300